

# 茨城県小美玉市立玉里小学校 (学校長 長谷川 光男)

実施日	平成19年12月4日(火)	時間	午前8時15分～午後1時30分
実施場所	体育館	対象/人数	1～6年生 241名
担当教諭	萩原 達夫	ファシリテーター	会田 早苗
講師	バンズラグチ・バヤルツエック(モンゴル・留学生) オレリアン・パロン(フランス 県国際交流員)		

## 活動内容

- ・モンゴルの紹介(民族衣装の紹介、モンゴルの国旗、自然、文字、生活、食べ物の紹介)
- ・フランスの紹介(国旗、生活、自分の育った町、家族などの紹介)
- ・ゲーム(モンゴルを題材にした問題、モンゴルのじゃんけん、フランスのにらめっこ、1・2・3太陽、パフォーマンス)  
児童と給食

## 児童の感想

- ・モンゴルからバイラさんとフランスからパロンさんが来てくれました。
- ・最初にバイラさんがモンゴルについて話をしてくれました。モンゴルの国旗、文字、風景、ウランバートル、食べ物、バイラさんの家族などについて写真を見せてくれました。この中で、草原が雪一面になっている写真が印象的でした。日本に比べるととても寒いので大変だと思いました。話をするとき、バイラさんはモンゴルの民族衣装を着てくれてとてもすてきでした。
- ・次にパロンさんがフランスの話をしてくれました。最初に、フランスの国旗は赤・青・白の三色ですがその順番はどうなっているかというクイズをしました。教えてもらって、よく分かりました。次に、写真を使ってパロンさんの住んでいた町や家族の話をしてくれました。
- ・その後、いろいろなゲームをしました。その中でフランスのだるまさんが転んだが楽しかったです。それから、パロンさんのエアギターはとても楽しくてみんな大騒ぎでした。
- ・モンゴルやフランス以外のいろいろな国の人会ってみたいです。来年の国際理解教室が楽しみです。

## 先生の感想

・コーディネーターの方には細かな点まで気を配っていただき綿密な計画を立てて実施することができました。バイラさん(モンゴル)はきれいな民族衣装で登場し、モンゴルの自然や生活を中心にパワーポイントを使ってお話をしてくださいました。児童はモンゴルの自然の美しさや厳しさ、

生活の様子を知ることができたようです。パロンさん(フランス)は、持ち前の明るさでフランスのゲームを楽しく教えてくれたり、エアギターのパフォーマンスで全校児童を魅了しました。

・児童は、ALTの方と英語の授業を通してふれる機会がありますが、あくまでも英語の授業を通しての接触であり、文化にふれることはほとんどありません。しかし、国際理解教室では世界中の様々な言語・人種・文化に生にふれることで、改めて日本という国について考えるよい機会になったと思います。

## 成果と課題

- ・児童はテレビや雑誌等を通して、世界の様々な国の断片的な知識は持っている。しかし、今回のように直接に触れ、体験することでその国のことをより知るとともに、親近感を持って調べようとする児童が出てきた。
- ・学級で事前指導を簡単に行っただけであったが、事前に講師の国について調べ学習などをしておくと、積極的に質問したり、関わったりすることができたと思う。
- ・全校生徒を対象としたため低学年(115名)、高学年(106名)の2つのグループ編成を行った。1人で多くの児童に対応していただくことになり、講師の方と多少距離感があったように思う。来年度は、本年度よりは少ない人数で対応できるような計画を立ててみたい。
- ・来年度は1回だけでなく複数回実施したいと考えている。

